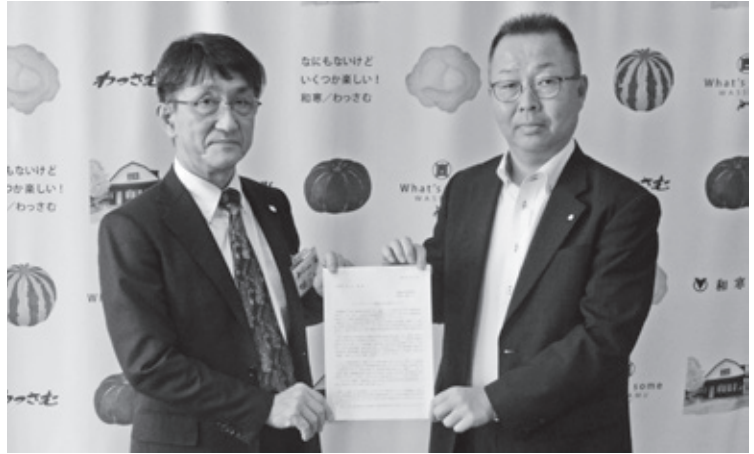


出来て良かったと思われる福祉施設を ふくしのまちづくり構想に提言

議会報告会や各種団体から寄せられた、ふくしのまちづくり構想に係る町民が懸念している内容を取りまとめ、総務経済常任委員会にて協議し、4月28日、窪田委員長が町へ提言事項を手渡しました。

早急に対応策を実施して多くの町民にこの構想が理解されるよう項目を提言しました。

町民の不安払拭を



1. 看取り……………令和10年度から実施できるよう進め、地元での看取り希望者にサービス提供できないか検討すること。
2. 施設利用……………短期入所（ショートステイ）の空き部屋がない場合は、行政が町内施設（かたくり荘など）を活用できるよう体制を整えること。
3. 利用料金の明確化…他施設の個室利用料金の比較表や個室でのメリットと機能充実など示すこと。
4. 建設費高騰の場合…シミュレーション（財源・支出のバランスシート、上乗せ可能額など）を作成し、建設費高騰のあおりを最小限に抑えるため来年から建設着手の必要性を示すこと。
5. チェック機能……………建設費と赤字運営費の町費支出と行政指導の範囲などを明確化すること。
6. 住民説明会……………行政側が重要事項や経過などその都度住民説明会を開催すること。
7. その他……………1) 特養入所は町内住居者を優先すること。
2) 施設では町内商工業者の物品等利用を求めること。
3) 基幹産業である農業の特色を活かした農福連携事業を推進すること。

6月2日に町より「指摘された課題は社会福祉法人ゆうゆうと連携しながら慎重に検討し、議会や町民の皆さまに情報を提供します」と回答がありました。提言への回答はQRコードからご覧ください。

提言事項がどのように進められていくのか、これから議会は注視してまいります。



今回の表紙

この一年は「和寒の働く四季」をテーマにします。

今回の表紙は、和寒町スポーツ協会の渡邊道太郎さんと細野雄太さんです。

日頃からパークゴルフ場やキャンプ場の整備、合宿の対応のほか、様々なスポーツイベントの開催等、スポーツの町わっさおを支える第一人者です。

また、渡邊さんはクロスカントリースキー、細野さんはバスケットボールと子どもたちへの指導もされ、多くのスポーツマンの育成にも尽力されています。

屈強で日焼けしたお二人は、まさしく本町の夏の顔でありました。

